

科目名称：	実用マナー演習	
担当者名：	田中 愛	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	演習	1
授業の目的・テーマ		
マナーを身につけることは、社会人として必要なだけでなく、より魅力的な人になるために不可欠な要素です。「他人のためだけではなく、自分のためにも必要な社会常識を身につけること」と理解し自分で考え、行動できるように取り組む姿勢を養います。また、周囲の方への思いやりの気持ちを大切に、自然な振舞いで表現出来るようになることを身につけていきます。		
授業の達成目標・到達目標		
マナーとは何か、日常的なマナーと職業生活におけるマナーの違いの理解を習得する。自己評価と他者評価から習得度を理解し、マナー向上を目標とします。		

ビジネス実務学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	自己理解を深め目標に向かって主体的に行動するとともに、多様性を尊重し、様々な価値観を持つ他者との良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP(2)	地域社会を理解し、様々な課題に取り組み幅広い教養を身につけるとともに、変化するビジネス社会に対応するための協働的な実践力を身につけている。	
DP(3)	ビジネス実務の分野において、基礎知識を身につけるとともに、専門的な知識や技能を修得し、各種資格取得を目指して専門性を磨き、これらを柔軟に活用していくことができる。	○

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
ビジネスDP(1)					0
ビジネスDP(2)					0
ビジネスDP(3)			80	20	100
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の实務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
なし	《内容1》	《経験年数1》
	《内容2》	《経験年数2》
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》
備考		

評価ルーブリック	素晴らしい	とてもよい	よい	要努力
学んだこと (レポート・課題評価)	自分の意見や感想が3つ以上、具体的に述べられており、読み手がなるほどと思える内容が含まれている。	自分の意見や感想が3つ以上述べられている。	自分の意見や感想が1つ～2つ述べられている。	自分の意見や感想がほとんど述べられていない、分かりにくい。
授業への積極的関与	学んだことを活かしながら、積極的に授業に参加する。特定の人とだけベアになるのではなく円滑なグループワークに取り組んでいる。	学んだことを活かしながら授業に参加する。グループの皆と意見交換をしている。	授業に参加する。グループワークの時はいつも決まった人とベアになる。	授業に参加しない。または参加してもまわりに迷惑をかけたか、無礼な態度で参加。
グループワークの積極的参加	グループワークではグループのリーダーとして時間配分やグループメンバーのサポート、対話しやすい雰囲気づくりができる。	グループのリーダーをサポートしながら、授業に積極的に参加する。	グループの一員として、まじめに参加した。	グループワークに参加しない。またはグループワークの和を乱し、授業規律も守らない。

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 オリエンテーション マナーとは	日常の中で触れるマナーについて良かったこと気になることを書きだしておく	30分
第2回 自己表現(第一印象の重要性)	好感が持てる人、そうでない人について書き出しておく	30分
第3回 好感を与える態度・基本動作① 身だしなみ	身だしなみや表情のポイントを復習	30分
第4回 好感を与える態度・基本動作② 立ち居振る舞い	立ち居振る舞いについて復習	30分
第5回 グループワーク	グループワークで話し合ったことについてレポートにまとめ提出	60分
第6回 信頼感が伝わる言葉遣い 敬語の種類・活用	敬語や言葉遣いについて復習	30分
第7回 好感を与える話し方、聴き方	話し方、聴き方のポイントについて復習	30分
第8回 仕事の進め方 問題解決力を上げる報・連・相	好感を与える話し方、聴き方の復習	30分
第9回 電話対応の基本	仕事の進め方の復習	30分
第10回 訪問時のマナー	電話対応の基本の復習	30分
第11回 来客対応のマナー	訪問時のマナーの復習	30分
第12回 ビジネス文書の基本	来客対応のマナーの復習	30分
第13回 食事のマナー	日常の食事で箸使いなど意識して実践	30分
第14回 お付き合いのマナー 冠婚葬祭・金封・贈答	食事のマナーの復習	30分
第15回 グループワーク	グループワークで話し合ったことについてレポートにまとめ提出	60分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。
また、事前事後学修としては、次回までの課題プリント(小レポート)をまとめることになる。

成績評価の方法・基準

定期試験は、実施しない。その他の評価配分は、以下のとおりである。
レポート・課題80%、授業への積極的関与20%で評価します。

課題に対してのフィードバック

授業内で提出したレポート・課題について、評価し返却します。

教科書・参考書

教科書：なし(必要に応じてプリント配布)